

IV - 8

韓国の釜山港を中心とした国際貨物流動解析

An Analysis of International Freight Flow Centering Around Busan Port in Korea

東北大学 学生員 ○具 滋 永
東北大学 正 員 稲 村 肇

1. 背景と目的

釜山港は韓国の経済発展過程における対外輸出入貨物の関門としての機能が拡大されてきた。また、向後亜太地域が成長し、域内の経済協力が緊密になる時その機能は強化される展望がある。

本研究では経済発展と環太平洋圏域の産業構造の高度化によって地域内貨物流動量の増加、それにより基幹産業開発に対応するため国際貨物流動解析を行う。特に、釜山港を中心とした国際コンテナ貨物のフィーダー輸送に関する流動を捉えて、韓国の港湾開発計画や東南アジア地域航路の新規開設の可能性を検討する。

2. 目的とする研究のフレームワーク

本研究における全体的シナリオは図1のように大きく四つのステップで分けられていた。

1) ステップ1

韓国の貿易統計と国際連合貿易統計のデータを利用して、韓国の過去10年間の貿易構造の変化と対外依存度、貨物量と形態の推移を把握する。そして、韓国と交易量が多い米国、日本と東、東南アジア7個国との貿易構造の変化について分析する。

2) ステップ2

輸出入貨物を一般貨物と分けて、一般貨物の中でコンテナ貨物を捉え、コンテナ化率の推移を求める。また、このコンテナ貨物を地域別、品目別に分析する。

3) ステップ3

この段階では国際貿易の相互依存関係と貿易相手国の対外貿易及び経済政策によって貿易量の予測を行う。

経済、貿易動向に関するデータは世界経済情報サービス (WEIS) と国際連合貿易統計の資料を使うし、貿易量と港湾貨物量の予測は国際貿易のための長期経済予測モデルと国際貿易における交易係数予測モデルを使用して分析する。

4) ステップ4

換算ブロックで求められたコンテナ貨物量を地域別（国家別）に捉えて、フィーダーコンテナ輸送に関する解析を行う。

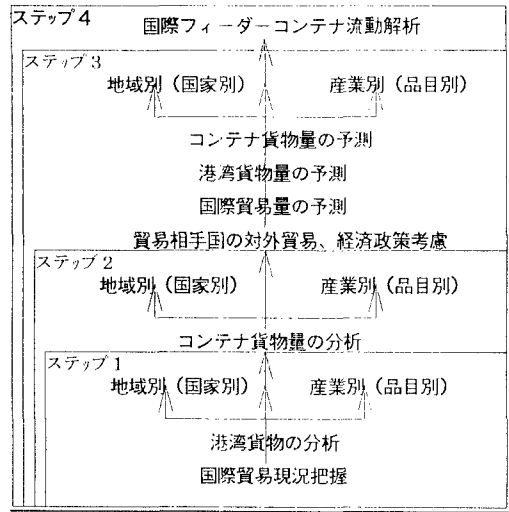


図1 本研究の全体のシナリオ

3. 韓国の貿易動向

1988年以降韓国貿易の地域間動向は徐々に変化してきている。

図2の国別輸出入額の推移を見ると1990年の米国、日本への輸出シェアはそれぞれ29.8%, 19.4% 輸入が24.3%, 26.0%になったが、1992年度では輸出がそれぞれ23.6%, 15.1%, 輸入が22.3%, 23.8%に変化している。

一方、図3では東南アジア、中南米及び北方地域等への輸出入市場の多変化政策の持続的推進の結果、その他の地域への輸出入額が増加している。

また、図4の世界主要コンテナ取扱国の現況を見ると韓国が第9位になっているが、その貨物量の95%の238.6万TEUを釜山港で取扱っており単一港としては釜山港が世界5位(1994 Containerization)になっている。

図5は韓国の輸出入貨物のコンテナ化率を示しているが、輸出の場合約70.0%, 輸入40.3%, 輸出入の全体では54.1%となっている。以上から、韓国の貿易構造が原材料の輸入、加工品の

輸出になっていることが分かる。

図2 国別輸出入額の推移

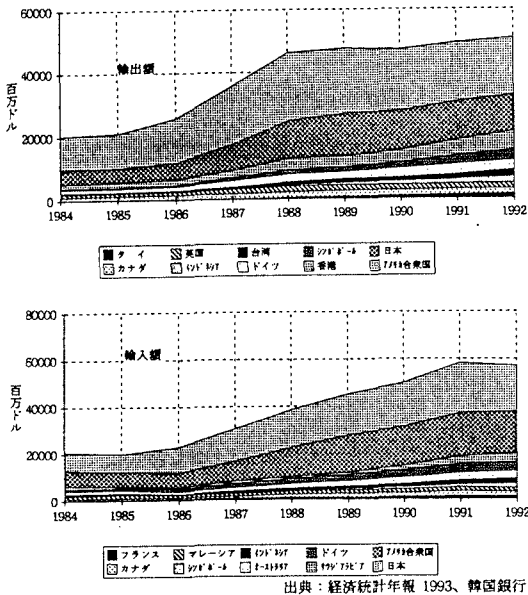


図3 地域別輸出入額の推移

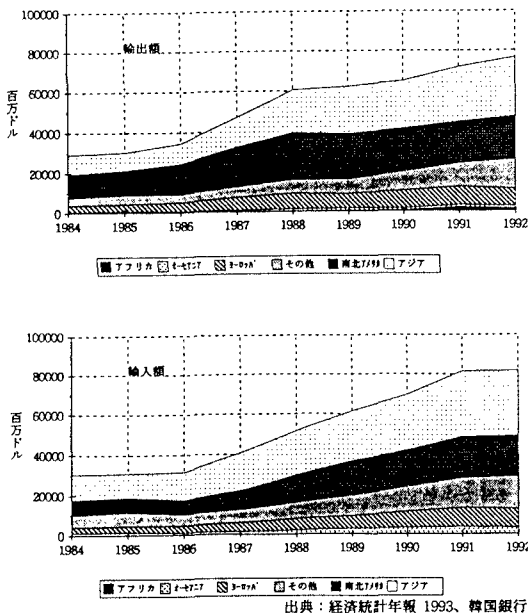


図4 世界主要国家のコンテナ貨物取扱量

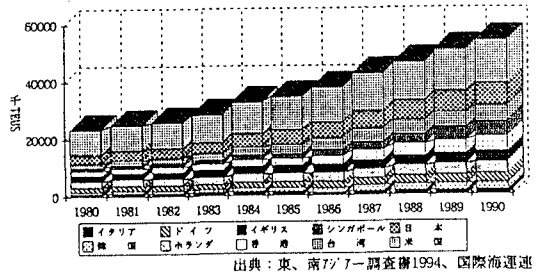
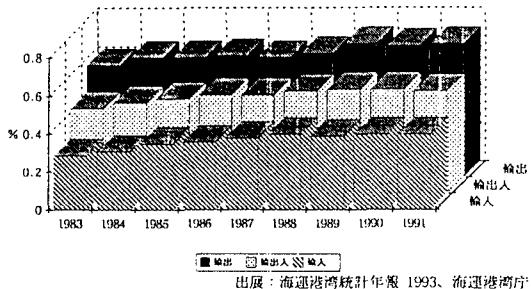


図5 韓国の海上輸出入貨物のコンテナ化率



4. 結論と今後の課題

各種データを利用して韓国を中心とした貿易に対して多方面で分析して見た。ここで、韓国の貿易はやはり日本と米国に大きく依存していて、輸入額においては日本が米国より多い。

地域別の分布を見ると1988年以降は韓国の貿易が北米依存からアジアとその他地域へ変化していることを見える。そして韓国の港湾貨物のコンテナ化率と世界コンテナ貨物の伸びがだんだん増加していた。まだ、貨物の品目別、国家別の流動と一般貨物の品目別、国家別のコンテナ化率を求めなかった。

今から上のことを分析し、貿易量予測モデルを使って日、米及び東、東南アジア地域の貨物流動解析を行う予定である。

<参考文献及び資料>

- 1) 山内 康弘、稲村 肇：貿易予測のための長期経済予測モデルの開発、土木計画学研究講演集、1995. 1
- 2) 竹村 洋之、河野 達仁、稲村 肇：国際貿易における交易係数予測モデルの開発、土木計画学研究講演集、1995. 1
- 3) 運輸省港湾局計画課：国際貨物需要予測モデルのための基礎調査 1992. 2
- 4) 角田 哲史：貨物需要予測のための国際相互依存モデルの開発、東北大学修士論文、1991. 2
- 5) 国際港運連盟事務局：東、東南アジアにおける国際貨物流動に係わる主要港湾の概要と実態調査、1994. 1
- 6) 韓国銀行：経済統計年報、1993
- 7) 海運港湾庁：海運港湾統計年報、1993